

## 第5分科会

# 特別な支援を必要とする子どもの育ちをつなぐために ～就学移行支援と関係機関連携会議（フォロー会議）の実践～



発表者	成川 洋子	(鳥取第一幼稚園)
助言指導者	加藤 典子	(鳥取県教育委員会事務局特別支援教育課指導担当係長)
司会者	豊田 美千子	(鳥取第一幼稚園)
記録者	米村 千恵	(鳥取第一幼稚園)
	尾崎 直美	(鳥取第一幼稚園)

## 1. 発表の概要

### (1) 主題設定の理由

平成11年度からの鳥取県の取り組み「鳥取県私立幼稚園特別支援教育研究推進事業」により、本園では平成14年度から障がい児を受け入れ始め、幼児の実態や保護者のニーズに応じ加配教諭を配置している。本年度は、発達遅滞、自閉症スペクトラム、肢体不自由などの障がいのある5名の園児が在籍している。

特別な支援を必要とする子どもが、『生きる力の育ち』を身に付けられるよう支援を行い、子どもたち同士で共に育ち合えるよう援助し、保護者に寄り添い共に子育てをしていく思いで信頼関係を築いてきた。そこで培われた支援のスキルを、就学移行支援会議の中で伝えてきたが、就学後の子どもの様子が気になりながらも、その姿を詳しく知る機会がなく、幼稚園としてどこまで見守ることができるのかという思いに至った。

そこで、平成27年3月に鳥取市教育委員会が打ち出した『関係機関連携会議（フォロー会議）』に着目し、実践することで、これまで就学に向けての支援が中心であった幼稚園の役割がさらに大きく広がるのではと考え、今回の研究に取り組むことにした。幼稚園での支援の在り方や子どもの育ち、子どもを取り巻く友達との関わり、教師の気づきや支援の在り方等を就学先へ伝え、特別な支援を必要とする子どもが、少しでもスムーズに豊かな学校生活を送れるよう効果的な連携を目指し、また、就学に伴い不安や緊張を抱いている保護者にとって、親子の信頼関係を基に安心できる存在としての幼稚園のサポートの在り方を追求していくことにした。

### (2) 取り組みについて

#### ① 就学移行支援の実践

接続期（就学前）

- ・保護者との就学に向けた話し合い
- ・就学移行支援の体制づくり…市教育センターとの連携（園訪問）
- ・学校見学の申込み、同行
- ・市教育支援委員会への申請書作成
- ・就学移行支援会議開催
- ・「関係機関連携会議（フォロー会議）」開催について打診

#### ② 関係機関連携会議（フォロー会議）の実践

接続期（就学後）

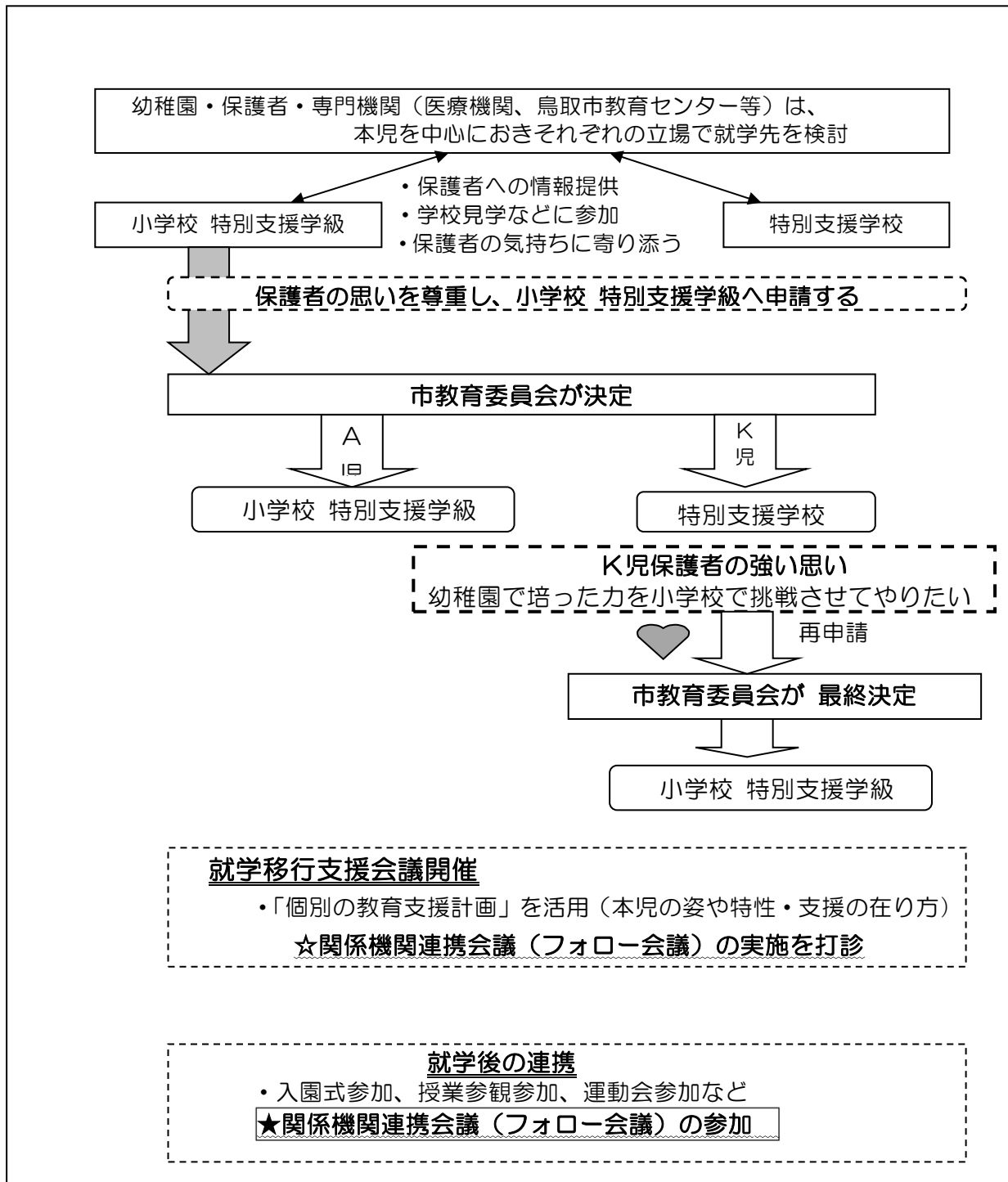
- ・A児の関係機関連携会議（フォロー会議）への参加
- ・K児の関係機関連携会議（フォロー会議）への参加

### (3) 実践例

対象児…A児：診断名一発達遅滞 平成26年4月～平成28年3月在園（2年保育）

K児：診断名一脳性まひによる肢体不自由

平成25年4月～平成28年3月在園（3年保育）



#### ① 就学後の関係機関連携会議（フォロー会議）の実践 接続期（就学後）

##### 実践例(1) A児の関係機関連携会議（フォロー会議）参加…6月14日

出席者：小学校・保護者・市教育センター・幼稚園

○学校生活(学習の様子や課題)について、支援の方法、家庭での様子など話し合う

○関係機関連携会議(フォロー会議)を終えて

- ・学習面での成長を感じ、支援の内容を再確認する機会となった。
- ・交流学級の様子や友達との関わりを詳しく聞けなかった。
- ・関係機関連携会議(フォロー会議)のポイントを明確にする大切さを感じた。

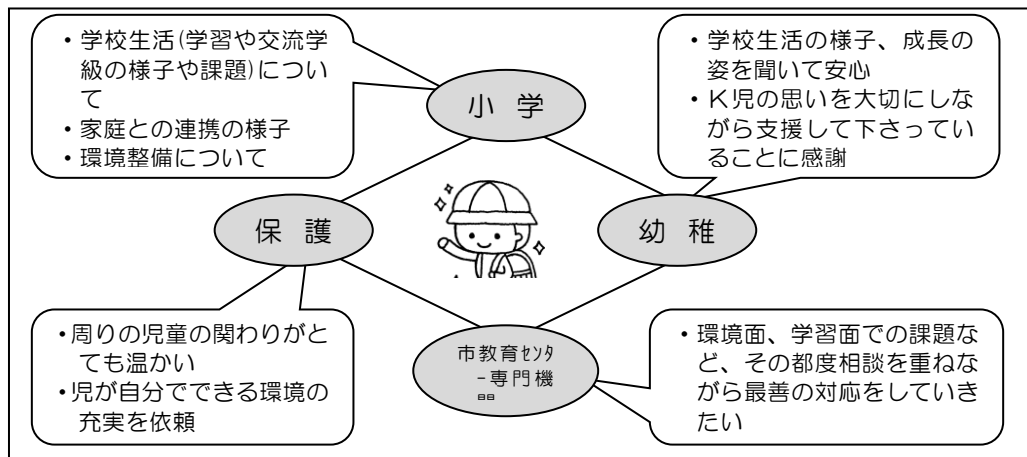
◆関係機関連携会議(フォロー会議)にのぞむにあたっての視点

- ・移行支援会議などで連携をとってきた内容がどのように生かされているかを念頭に置く
  - 子どもの現状把握
  - 家庭での様子、保護者の思い
  - 地域との関わり
  - 学校、家庭、専門機関との連携の現状
  - 就学後の連携で感じたこと

実践例(2) K児の関係機関連携会議(フォロー会議)参加…7月1日

出席者：小学校・保護者・専門機関・市教育センター・幼稚園

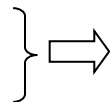
○A児の関係機関連携会議(フォロー会議)の反省をもとに、視点をもって会議に臨んだ。



○関係機関連携会議(フォロー会議)を終えて

- ・学校生活の充実、友達や異年齢児との関わりがわかった。
- ・協力体制の充実
- ・専門機関との連携がよりよい支援になっている。
- ・視点を明確にしたことで、K児の育ちや課題を確認しあうことができた。
- ・今後の方針

自立活動に向けての支援  
担任の負担軽減と職員間の連携  
自立しやすい環境づくり



小学校・保護者・専門機関・  
市教育センター・幼稚園が、  
共通理解する。

## (4) 考察

### 〈まとめ〉

#### 【就学移行支援の過程において】

- 保護者との連携を密にし、思いに寄り添い信頼関係を築く中で、未来を見据え幸せを願いながら、就学まで丁寧な支援を行うことが、子どもと保護者を支える大きな基盤となることを感じた。
- 市教育センターや就学を考えている学校等と早期から連携をとることで、保護者が就学を考えるに当たって学校の様子や学校生活の流れを具体的に知ることができ、また学校側にも子どもについて知ってもらうことができる。教育機関と早期につながり、就学移行支援の体制を整えることが大切だと感じた。
- 学校での支援に生かしてもらえるよう、就学移行支援会議で子どもの姿や特性、支援の在り方などを『個別の教育支援計画』を用いながら丁寧に伝えることが大切だと感じた。

#### 【関係機関連携会議(フォロー会議)を実践して】

- 「就学移行支援会議」だけでなく「関係機関連携会議(フォロー会議)」を開催したことで、幼稚園として小学校に伝えた内容が生かされているか等の確認をする機会がもてた。伝えるだけでなく、確認することも幼稚園にとっての責任であると感じた。

- 幼稚園側から関係機関連携会議（フォロー会議）の開催を促し実施に至ったが、これまで実施したことが無かったり、必要性を感じていなかった小学校側から「関係機関それぞれの立場からの言葉を聞くことで、支援の在り方を再確認でき、今後の支援に向けての勇気をいただいた」との発言もあり、この会議を行うことで幼小連携の強化が図られたと思う。
- 今回、関係機関連携会議（フォロー会議）に参加したことで、幼稚園として会議に臨むに当たっての視点を明確にもつことの必要性に気づき、実践することができた。視点をもって臨むことで、就学移行支援会議で伝えたことが活かされているか、就学後の子どもにとって園生活の中で積み重ねてきた支援が有効であったかどうかの確認をすることができた。
- これまで、子どもが卒園する3月までが幼稚園と小学校の主な連携であったが、接続期を意識して就学後7月まで小学校とつながりをもてたことで、幼稚園は子どもの学校での様子を具体的に知り、関係者とともに「子どもの就学における円滑なスタートを見守る」という役割を果たすことができた。

## 〈今後の課題〉

- ・就学移行支援会議と就学後に行う関係機関連携会議（フォロー会議）が連続性のあるものとなるよう、個別の教育支援計画等を活用しながら、移行支援のポイントや就学後に確認したい支援状況を明確化し学校側と共通理解する必要がある。
- ・関係機関連携会議（フォロー会議）は、就学先の学校側の申し出により開催するものだが、まだ認識が浅く、今後、幼小連携の計画の中に明確に位置づけられることが望ましいと考える。そのために、就学移行支援の中で、幼稚園から働きかけて学校側に会議の開催の了解をいただいていることが必要となる。特別な支援を行ってきた子どもを送り出す幼稚園として、「子どもの就学における円滑なスタートを見守りたい」という気持ちをしっかりと自覚し、幼稚園から発信していかなければならないと思う。
- ・診断を受けていない「気になる子ども」に対しても、就学後の見守りの必要性を感じている。特別な支援を必要とする子どもと同じ様に、就学前はもちろん、就学後の連携の在り方についても考えていかなければならないのではないだろうか。

## 2. 研究討議

### （1）発表内容に対する質疑応答

Q…就学移行支援会議に出席された小学校側の先生はどなただったか。（倉吉幼稚園：井尾園長先生）

A…特別支援教育の担当の先生、特別支援学級の現担任の先生、主任、校長先生が参加された。

Q…関係機関連携会議を幼稚園から発信し行うにあたって、順序や困難さがあれば教えてほしい。（鳥取第二幼稚園：村上先生）

A…フォロー会議が打ち出されてからまだ日が浅く、実践されていないところがほとんどであった。特別な支援を要する子を見届ける幼稚園の役割としてまだできることがあると思い挑戦してきた。

しかし、小学校側にも意識が浅く定着していない会議であるので幼稚園側から言っていかななくてはいけないと思い、小学校の行事に参加させていただく度に園長が小学校側にアプローチしていった。学校によっては日にちがすぐに決まる学校もあれば、就学後順調にスタートすることができたためにフォロー会議の必要性をあまり感じていなかったということで、なかなか日にちが決まらない学校もあった。幼稚園からアプローチしていくことが大切だと感じた。

Q…A児もK児も加配教諭がいたか。発表者はどういう関係なのか。（倉吉幼稚園：井尾園長先生）

A…加配教諭はいた。発表者はA児とは同じ学年の学年主任として過ごし、K児は年中の時に担任していた。今回の研究にあたり教務主任の立場で、担任や加配教諭が行う支援を見たり、計画や反省を見たりしながら一緒に話し合い、寄り添ってきた。

Q…障がいのある子どもを教育する中で、周りの子どものあり方が大事になるが、障がいのある子どもを中心とした学級経営の実態や工夫はどうしているか。(倉吉幼稚園：井尾園長先生)

A…障がいのある子は能力の差、個人差が大きいところがある。担任はクラス全体を見ながら対象児がどのように周りに関わりをもつことができるか、活動の中でその子に応じたねらいをもって進めていくか考えている。その子に合ったねらいは身近にいる加配教諭が気付き、担任は全体の中で折り合いをつける。その子自身が積み重ねてきたことを、ここまでできているんだと家庭に知らせることで周りとの差を大きくマイナスに感じさせずに、胸を張って家族に伝えている。担任と加配とのつながりが基礎だが、携わっている職員だけがその子について考えるのではなく、気になる子どもについて全職員共通理解し合う会をもち理解するようにしている。そうすることで、様々な場面で、その子の成長に気付くことができる目がとても増えたと思う。

Q…加配教諭が記録をとると思うが、記録したり話し合いの時間の持ち方はどうしているか。(ひかりこども園：久野園長先生)

A…本園でも大きな課題である。あえて書く時間を設けず、日々の記録は加配教諭がメモを持ち歩き隙間の時間に書く。記録を書く時間は加配教諭も担任もとるのは難しい。記録は加配教諭が月に1回個人記録を書き担任、管理職が見る。期ごとに、期に合わせた個別の指導計画を立て目標をもって進めている。5領域に沿ってその子の育ちを見ている。

園長…以前は毎日記録していたが、毎日変化を見つけるのは難しく、ただ書くだけの記録にはしたくないと思い、子どもの成長を1か月のペースで見ようにした。教育課程に沿った期に応じてのねらいや配慮、反省、次の期につながる目標を立てている。2か月に1回、加配教諭が集まって語り合う時間を設けている。話し合った指導内容、困り感をノートに書き、全職員で回覧し同じ関わりができるようにしている。

## (2) 全体討議

**【議題1】** 特別支援を必要とする子どもにおける自園の就学前・就学後の状況（支援や連携のもち方）を教えてください

**【議題2】** 関係機関連携会議（フォロー会議）をどうとらえたか

### 【議題1】

- ・就学移行支援会議はどの幼稚園もしていたがフォロー会議はしている幼稚園はなかった。
- ・幼稚園と小学校に温度差があると感じている。就学前に様子を伝えてもうまくいっていなかったり小学校に行っても連携が取りにくかったりする。保護者との連携でも、子どもに対しての課題点を伝えたいが、あまり大きな溝もあけたくないので連携を取るのが難しい。医療関係を進めても心配ないと言われると保護者は安心するが、後々学習についていけないなどの問題が起こることもある。
- ・就学前は学校見学や幼保連絡会や就学移行支援会議など事前のフォローはできている。就学後は参観日に行くところもあるが、地域外の小学校では就学後の関わりがないので、園から発信していかなければならないと感じた。小学校とのつながりだけでなく保護者とのつながりも大切にしたい。
- ・就学前は専門機関の方々との意見交換、専門員の方に幼稚園に来て見ていただく。米子市の方では「サポートブック」を作って生かしている。東部では教育センターの方に見に来ていただいたり、療育園や医療センターの方と連携をとりながら支えている。就学後は参観日の見学に行く。
- ・就学前は就学移行支援会議を開き、巡回相談や専門の方からの意見を聞いている。倉吉市では教育委員会と福祉保健部の方に来ていただき実態を見ていただくこともある。学校のトップの方に会議に参加していただき実態を把握することが大事。フリー参観日がある学校があり活用したりする。
- ・メインではないがフォロー会議のような幼小連携をする幼稚園もある。専門機関や親と支援方法の考え方が違うことがあり、担任としての支援方法で戸惑うことがある。気になる子の保護者への伝え方も難しく、内科医を進めるなどしてワンクッションおくようにしたりしている。

## 【議題2】

- ・移行期が7月までだが、7月までに気持ちの踏ん切りがつかだろうか。ずっと必要なのではないかと考えると、私たちの仕事はいつまで続いていくのか…という不安や抵抗があった。しかし、一步踏み出す勇気を持ち取り組むことが子ども達の成長につながると感じた。
- ・フォロー会議は開催したことがなく、学校に行ってからどうしているか気になる。小学校へ行ってからの様子は保護者に聞くことが多い。
- ・顔を合わせる場や行事後に様子を聞く機会はあるが、会を開くまでには至らない。アドバイスをし合えてお互いにいい。会議が持てると次にもつながると思うので取り入れていきたい。その子の状況を知ることでもできるが保育者としての成長を見れる機会にもなり喜びにもつながると感じた。
- ・フォロー会議という言葉自体初めて聞いたが、とても大切だと感じた。診断されていない気になる子をどう小学校に移行していくか、保護者の方の心のケアをどう考えるか、今後の課題だと感じる。
- ・参観日は地域の小学校にしか出向くのが難しい。フォロー会議の第一歩を幼稚園から踏み出しているのはすごい。なかなか園から発信することは難しいが、一步踏み出すことで、その子だけでなく、全体の子につながっていったらいいと思う。
- ・就学移行支援会議はどの幼稚園でも行われているが小学校に伝えたことが、なかなか伝わり切っていないところがある。幼稚園とは環境が違うので45分間座ってられない子がいて小学校側から、聞いたことと違うのでは、と言われることもある。フォロー会議は幼稚園側からアプローチしていくことが大切だと感じた。園長先生や校長先生のようなトップが連携をとることが大切だと感じた。

## 3. 指導助言

- <10年前の現状>
  - ・小学校が決まっていないうちの小学校見学は難しかった
  - ・就学前に子どもの事を知って欲しいと会議を提案しても、小学校は経験がなく戸惑われていた
- <今では>
  - ・前例を作りながら、ほとんどの地域で小学校見学、就学移行支援会議を開催するようになってきた



ではその後、大事に育ててきた子どもがどう成長しているのか・・・。

幼稚園を卒園したので終わり、では子どもがものすごく戸惑ってしまう。発達段階は幼稚園で終わりではなくて連続性のあるものなので、幼稚園から小学校に就学する時に、いかに重なり合う工夫をするかが大切である。その後、小学校に上がったから勉強ばかりになるのではなく、(※) 幼稚園で培った力を土台として小学校に引き継いでいくようにする。そのためには、小学校側も、接続期(就学後7月頃までが目安)を意識していかなければならない。フォロー会議の資料が載っている「育ちをつなぐ」の冊子は鳥取市すべての小学校に配布し、理解啓発を進めているところである。

### (※) 幼稚園で培った力

#### ○遊びの芽生え

- ・楽しいことや好きな事に集中することを通して学ぶ
- ・遊びを中心として様々な対象と直接関わりながら総合的に学ぶ
- ・様々な言葉や非言語によるコミュニケーションによって他者と関わる



コミュニケーションや知識理解につながる興味・感心・意欲が育つ

## <幼稚園と小学校の共通点>

- ・人と関わってしっかり発達を促していく
- ・物としっかり関わりながら本人の力を伸ばしていく



## <幼稚園と小学校の違い>

### ○幼稚園（幼稚園教育要領）

～を味わう、～を感じる、楽しむ

- ・経験カリキュラムに基づいて展開
- ・遊びを通した総合的な指導

### ○小学校（学習指導要領）

～の能力を身につける、～ができる

- ・教科カリキュラムを中心に展開
- ・各教科等から構成された時間割に基づく学級単位の集団指導

教育目標や内容は、幼稚園教育要領と学習指導要領が基盤としてあるが、それを比べると明らかに表現のされ方が違う。違って当然であり、その違いをお互いに十分に理解することが大切である。そのため参観日や行事に参加し、知ることが大事。

## <インクルーシブ教育システム（共生社会）について>

引継ぎをする時のポイントとして、園全体でチームになり、個ではなく集団の中で育ててきたという思いをもって小学校へ伝えることが大事である。今回の発表はそのチーム体制が伝わったのではないかと。今、共生社会の形成に向けてインクルーシブ教育システムを作っていこうということが言われている。幼稚園には特別支援学級はない。小学校・中学校にはあり、その子の学びを保障するためにとっても大事な場であり、なくてはならない教育の場の1つである。幼稚園でも10分、15分個別に指導することをされているのではと思う。集団をどう作っていくかについてはユニバーサルな教育の在り方をどう考えていくかということにつながっている。今回の発表では、K児が歩く練習をしていると周りの子どもが応援してくれたり、見守ってくれたりする心情を育てている、というところである。共に学ぶ仲間であるということをしかり学級の中で作っていつている。集団の基礎的環境整備をしかり園の中でしている。数字を数える練習をしたり、歩く練習をしたりするなど個別に必要なとされ対応することを合理的配慮という。鳥取第一幼稚園ではバランスよくされていた。個別に指導するのはみんなと一緒に学ぶことができる為、その子の持っている可能性を伸ばしていく為にしている。将来的に共に学ぶ、共に生活していくための力を個々にもつけてきている。まさにインクルーシブ教育システムを目指す姿を幼稚園の中で作ってきている。

## <就学に向けて大切なこと>

### ○幼稚園や学校等と保護者との信頼関係を作る

- ・子育ての後押し、子育てを手伝うスタンスで保護者の思いを受け止める
- ・子どもの発達と状態、困っていること、支援方法を共有する

### ・専門機関とつながる

幼稚園や小学校はいつか卒園、卒業する日が来る。専門機関とつながることにより、誰かがずっと継続的につながっていくという大きな支えになる。うまくいっているときこそつながってほしいものである。1対1だとうまくいかなかった時に逃げ場がなくなるので面で支え合う環境を作りたい。

### ＜会議に参加するにあたって＞

- ・目的をもって参加する
- ・欲張りすぎず、大事な所はおとさない
- ・本人の事をしっかりとみんなで共通理解する
- ・環境調整のためのヒントを絞っておく

(時間の構成、空間をどう作っていくか、視覚支援、人との関わりとしての言い方、示し方)



### そのために個別の教育支援計画、支援シートを活用

フォロー会議と言っているが堅苦しいものでなく、柔軟に形を変えていけたらいいと感じている。全ての人が集まらないといけないではなく、日々お互いに出向き合った時に15分だけというように、時間を有効に活用出来たらいい。学校に出向く回数が増えれば増えるほど顔が分かり、気持ちがつながり、信頼関係が出来る。フォロー会議は、来年度就学されるお子さんに是非取り組んでいってもらえたらと思う。特にこの子については、という子をモデルにしながら鳥取県全体に広げていけたらと思う。